

# 大空に翔ける



2019年度日之影中学校だより



5月号

文責 校長

伊東 泰彦

## 部活動の活躍

### 野球部が優勝！ けだスポーツ杯



日之影中の部活動は、どの部も少人数ながら選手達はとても熱心に活動しています。

野球部は3年生5名・2年生2名しかいない中、新入生を加えて参加した県北の大会で、延岡市内の強豪強を次々と撃破し優勝しました！

### 男子バレー部準優勝、ソフトテニス部3位

他にも、県北地区の大会において、男子バレー部が準優勝、ソフトテニス部(女子)が3位に入りました。



男子バレー部

※6月号では中体連に向けた各部の紹介をしたいと思います。がんばれ・日之影中生！

## 高千穂高生が中学生に授業

5月10日から総合的な学習の時間が本格的にスタートしました。1年生では、世界農業遺産(GIAHS)やユネスコエコパークなどを含む日之影町の自然や歴史・伝統文化などを探究していきます。キックオフ授業はGIAHSアカデミーで学んでいる高千穂高生3名が来校し、授業をしてくれ、しっかりした説明に生徒も聞き入っていました。

高校生による説明



後半は「哲学対話(東京大学の梶谷教授が提唱している主体的対話的学習法)」という対話型の協働学習を、高校生と生徒、先生とが一緒になって行いました。



哲学対話のようす

### 【5月の主な行事】

- 8・9日…3年実力テスト
- 13日…郡教科等研究会 教育実習開始
- 16日…3年福祉体験
- 16・17日…PTA奉仕作業
- 23日…交通安全教室
- 24日…生徒総会

### 【6月前半の主な行事】

- 6日…選手激励会
- 8・9日…地区中体連



ウグイス



校章をかたどったツツジ



校門横のケヤキ

学校周辺で暮らし・感じたことを書かせていただきます▼日中下教職員住宅の朝は、無線から流れる「みかんの花咲く丘」と屋外から聞こえるウグイスの鳴き声で始まる。ウグイスは「春告鳥」とも言われ、万葉集や古今和歌集でも詠われている、春の里山を彷彿させる鳥である▼登校すると、校門の石碑横からグラウンド沿いに並んでいる榎(けやき)の新緑が朝日に映えてひと際まぶしい。榎には「目立って美しい・強い木」という意味があるそうだが、こんなにたくさん植えてある学校は珍しい▼登校指導の後、校門へ続く坂道を上ってくと校章の形に植栽されたツツジがシンボリックである。そういえば春祭りの帰りに国道から見た天神山公園のツツジも見事だったのを思い出す▼日之影町のホームペーシを見てみた。町の鳥は「ウグイス(昭56制定)、町の木はケヤキ(昭56制定)、町の花はツツジ(昭43制定)とのことである。(校長・伊東)

うぐいすの 谷よりいづる こゑなくば 春くることを たれかしらまし

【訳】もしも、うぐいすが谷から出て 鳴く声がないならば、春の来る ことを誰がしるだろうか

大江千里(古今和歌集)

## 「朝の読み聞かせ」スタート

読み聞かせボランティア・スマイルの方々による朝の読み聞かせ(1・2年生対象)が、5月7日よりスタートしました。元号が変わったこともあり、美智子皇后が疎開中に読まれていたという「でんでんむしのかなしみ」などを読んでくださり、生徒の心に響きました。

これからもどうぞよろしくお願いいたします。



朝の読み聞かせのようす

## ランチルームでの給食スタート

本校に赴任して非常に感動したことの1つに給食の美味しさがあります。自校で作っていたたく熱々の給食は、日之影中の自慢の1つではないでしょうか。



給食室に隣接するランチルームで、5月から2年生が給食を食べています。教室とはひと味違った雰囲気、コミュニケーションも深まっているようです。

## お礼 春祭りに参加して

月末より、町内各地区の春祭りや公民館総会にご招待いただき誠にありがとうございました。教頭先生と一緒にたくさんの地区を訪問させていただきましたが、公民館や神社に上がらせていただき、たくさんの方々とお話を交わることができました。まるで町内を家庭訪問させていただいているような気分で、町内の地理や地名にも少し詳しくなりましたし、歴史や伝統の重みを感じたり、町民の方々の温かなお人柄に触れたりすることができ、とても貴重な時間を過ごさせていただきました。

婦人会の方々が手作りの御馳走を準備いただいた地区もあり、感謝申し上げます。



## 吹奏楽部の演奏から

4月28日に平底運動公園で開催された「おかげsunマルシェ」に参加し、初めて本校吹奏楽部の本格的な演奏を聴きました。わずか13名による演奏でしたが、中高年者にも馴染みの曲を誠実に演奏するパフォーマンスは、来場者の心に響くとともに、会場を華やかに盛り上げてくれていました。

やはり吹奏楽部の音色はイベントや学校に欠かせないと実感しました。



13名による演奏を聴いていて、ふと20年ほど前に見たドラマ「それが答えだ！」(三上博史主演)を思い出しました。

小さな村の中学校のわずか12名の部員に、楽団を追われた天才マエストロが音楽を手ほどきすることになり、最後は全国大会で特別賞を受賞するというストーリーです。

マーラーの第5番アダージェットという曲が、中山間地の風景を強く印象づけるドラマだったと記憶していますが、日之影中の吹奏楽部にオーバーラップしました。

ドラマの中で校長や有識者が口にしていた「音楽は万人に平等でなければならない」「小さな村にこそ音楽が必要だ」などのセリフは、到来する人口減少社会に一石を投じるものだったような気がします。



本校はどの部も少数ながら、全力で応援したくなる頑張りを見せてきています。

吹奏楽部も、今後の活躍を期待しています。がんばってください。